

令和6年度活動報告

農地・移住・就農部会

① 新・農業人フェア出展(令和6年12月8日 農業 EXPO@東京ビッグサイト)

相談件数: 14件

＜年齢＞

10歳代：3件、20歳代：1件
30歳代：2件、40歳代：3件
50歳代：3名、不明：2件

＜都道府県＞

東京都：4件、神奈川県：3件
千葉県：2件、茨城県：2件
熊本県：1件、不明：2件

近年、Iターン移住者を中心に、有機農業での新規就農を相談される方が増加してきている。こういった傾向から、潜在的な有機農業での新規就農希望者は、相談件数以上に存在していることが予想されることから、南種子町の有機農業推進の取り組みを広くPRするため、「新・農業人フェア」へ参加し相談を受けるとともに情報収集を行った。



生産技術部会

① 有機農業研修会の開催（年6回）

トンミー市場の生産者を中心に広く呼びかけ、有機農業に取り組む生産者を増やし、給食やトンミー市場への有機食材の供給を充実させるための研修会を開催する。特に、利用頻度の高いニンジンとバレイショの栽培技術を学ぶことを目的に農業者研修会を年6回開催した。

中でも第4回は、熊毛支庁と共催で、有機協会の古市氏を招き有機JAS概要講習を実施した。研修の成果としては、令和7年1月～3月にかけて2名の参加者が、給食へニンジンを提供するとともに、一部はトンミー市場での販売も実施しPRも行った。

課題としては、給食出荷基準を品目ごとに確認することや、使用量が少ないため、まとめでの出荷ができないことが難点であるとの意見があった。

回	期日	内容
第1回	令和6年8月5日	ニンジンの太陽熱消毒技術
第2回	令和6年9月4日	ワークショップ、ニンジン播種および実習
第3回	令和6年10月15日	ばれいしょの栽培体系と種芋植え実習
第4回	令和6年12月17日	有機JAS認証の概要についておよび現地巡回
-	令和7年1月22日	出荷等打ち合わせ会
第5回	令和7年1月30・31日	先進地視察研修(農家2軒、かごしま有機生産組合)
第6回	令和7年3月6日	病虫害対策(IPM)について等

給食へのニンジン提供実績：6回 50.65 kg (1/14～29 最小 5.2 kg～最大 14.0 kg)

研修状況



太陽熱消毒研修



バレイショ研修



先進地視察(いちき串木野市)

② グリーンな栽培体系への転換サポート事業（有機米）

3名の農家の圃場で有機米づくりに向けた検証を2年間実施する。令和6年度は1年目であり、「施肥」、「播種育苗」、「栽培雑草管理」の各段階において、アイガモロボによる雑草対策など有機米につながる技術の実証を行った。

6年産については、4月の日照不足もあり、アイガモロボ実証のため深水管理した実証圃では藻が大発生するなどの課題もみられた。2月に実証内容の検討を行い、7年産に向けた計画を作成し、3月から取り組みを開始した。



新型アイガモロボ試作機実証



乗用除草機の実証



収穫作業(カメムシ被害有り)

③ グリーンな栽培体系への転換サポート事業（安納いも）

3名の農家の圃場で環境にやさしい安納いも栽培体系確立に向けた検証を2年間実施する。令和6年度は1年目であり、「耕起整地」、「施肥・土づくり、病虫害管理」、「定植、栽培管理、収穫後作業」の各段階において額縁明渠設置やサツマイモ移植機の実証など病害対策や省力化につながる技術の実証を行った。

2月に実証内容の検討を行い、7年産に向けた計画を作成し3月から取り組みを開始した。



額縁明渠設置



植付機



ファーモによる圃場データ収集

普及・流通部会

① 有機農業体験イベントの開催

有機農業の普及(生産, 流通, 消費, 食育, 環境教育等の各分野)を目的として, 生産者, 消費者, あおぞら保育園の子どもたちや, 一般公募により集まった方を対象とした有機農業体験を実施し, 有機農業に関する情報発信や交流の拠点とした。

また, 有機農業体験圃場は昨年度に引き続き有機 JAS 認証を取得した。



<一般公募による収穫体験>

R6.12.1 サツマイモ・ダイコンの収穫 5人

R7.2.22 バレイショ・ダイコンの収穫 15人

<あおぞら保育園>

R6.6.11 サツマイモ植付

R6.9.13 スイカ収穫

R6.10.31 サツマイモ収穫

<中央認定こども園>

R6.11.5 サツマイモ収穫



② 「九州・山口有機農業の祭典」への参加(令和7年2月1日)

【分科会:オーガニックビレッジの現状と今後の展望】へ事例発表とパネリストとして参加

◇取組事例発表

有機農業推進の経緯並びにオーガニックビレッジ(有機農業実施計画)における取組(農業者育成、他機関との連携、学校給食の利用など)と今後の展望

・「南種子町」 総合農政課担当補佐 小川 浩輝 他に南さつま市が発表

◇パネルディスカッション(進行;五嶋大真…いちき串木野市で有機農業、給食コーディネーター)

・福元農園 園長 福元 雅岳氏

(南さつま市の子供たちのために給食の地場野菜の使用率を1割→2割にしたい)

・むかえ農園 向江 司氏

(生産の安定と効率化。興味ある人はいる。効率的な生産をして周りの人に広めたい)

・あいら有機部会 会長 今村 君雄氏

(学校での出前授業の時間を増やしたい。給食への葉物納入量を増やしたい)

各産地の取組みについて、意見発表および意見交換が行われた。



取組み事例発表の状況



パネリストの向江氏

有機給食部会

① みなみたねゆうきっこチャレンジ給食

毎月8日の有機の日に合わせて、有機野菜を取り入れた給食の提供を行った。栄養教諭により、給食に使用している有機食材について献立表や一口メモで、児童・生徒にもわかりやすく周知がされた。ゆうきっこチャレンジ給食のご飯は有機米(試験栽培)を使用し、有機農業体験圃場で作られた野菜は、あおぞら保育園や中央認定こども園の給食へも提供し、使用された。

また、ゆうきっこチャレンジ給食開催の際は、各学校へ事務局と関係者(生産者、栄養教諭、職員等)で出向き、有機農業についての説明を行い、生徒たちと交流する巡回活動も併せて実施した。



② 有機給食イベントの開催(令和6年12月9日)

町内小・中学校の児童生徒及び保護者への有機農業の普及(食育、環境教育)を目的として開催した。町内小・中学校で有機食材を使った給食を提供し、大川小学校において有機給食試食会を開催した。



*R7.1

「鹿児島をまるごと味わう学校給食」週間に合わせ、有機食材を利用した給食を提供

事務局

◆「ふるさと祭」お祭り広場で、町有機農業推進協議会ブースの設置や展示

◆研修会への出席

- ・環境にやさしい農業を普及するための現地研修会(7月・南さつま市)
- ・有機農業を推進するための現地研修会(12月・始良市)

◆持続可能な農業に関する情報交換会の開催(相良農園, 旬彩アグリ)

◆ 町外からの訪問や視察の受入れ, 意見交換会など

- ・東京大学未来ビジョンセンター 聞き取り調査(7月), ワークショップ WEB で参加(1月)
- ・えびの市協議会

◆ 情報発信(町広報紙・町ホームページ・SNS)

- *町広報紙へ記事を掲載
- *町ホームページへの情報掲載
- *SNSでの情報発信(協議会インスタグラム)

